2013年（平成25年）11月18日号
NO.2607 （毎週月曜日発行）
株式会社 週刊住宅新聞社
本社 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4 中公ビル
TEL.03(5363)5810 FAX.03(5363)5815 郵便振替口座 00120-5-83424
発行人 長尾 浩章 昭和35年5月10日 第三種郵便物認可
http://www.shukan-jutaku.com/
週刊住宅

倉庫業者が考える

ビンテージ倉庫活用法④

有名建築家がアトリエに利用

室温の快適性より〝自由な空間〟

前回、倉庫物件は倉庫業界と不動産業界の商習慣の違いなどから不動産市場に出回りにくいと書いた。そんな中、倉庫を物流用途以外で使いたいというマニアな問い合わせは、何年か前から不定期に寄せられていた。

しかし、倉庫業界出身の私は「倉庫はかっこいい」と思う感性の人たち、例えば建築家などの感覚が分からなかった。思い出しても悔しいのは、ある有名な建築家から「倉庫を改修して、事務所をつくりたい」という問い合わせである。だが、私はその先生がどれだけ建築界で高名か知らなかったし、ニーズに合った倉庫をうまく紹介できなかった。最近、テレビや雑誌によく取り上げられ、世界的な賞も受賞された先生の姿を見かけるにつけ、「逃した魚は大きかった」と反省しているのだ。

建築家・西村浩氏のアトリエ。両側は外車ショールームなど

しかし、倉庫をリノベーションしたいという問い合わせが増えるにつれ、私は建築家は倉庫が大好きなのだということを知った。例えば、横浜市の「ナショナルアートパーク構想」の一環で、06年に元保税倉庫をリノベーションしてつくられた「創造空間 万国橋SOKO」（横浜市中区）。ここは、グッドデザイン賞、日本建築家協会賞など数々の受賞歴のある山本理顕先生が事務所を構えている。ガレージ建築を得意としている松永基先生の事務所もある。

また、佐賀市特有のクリークに面した空き地にコンテナを置いて、子どもたちが集まるコミュニケーションスペース「わいわい！コンテナ」を設計した西村浩先生。このプロジェクトで今年、グッドデザイン賞を受賞し、波に乗っている西村先生も倉庫フリークの一人だ。

先生の入居した品川の平屋倉庫は、私のような物流出身者からすると周辺は住宅で、道幅が狭く、作業しにくいことこの上ない。物流用途のお客を探してほしいと頼まれたら、逃げ出したくなるような物件だ。

しかし、先生はこのスレート平屋倉庫を建築事務所にリノベーション。倉庫らしさを残したむき出しの梁や天井に、木材を組み合わせ、居心地のよい空間を作り出している。

スレートの倉庫なので、冷暖房は効きにくいだろうと思い、尋ねてみると「夏は暑くて、冬は寒いですよ」とうっとり嬉しそうな顔で答えるのだ。なんと、部屋の温度の快適性より、クリエイティビティを発揮できる自由度の高い空間を確保する方が、若いクリエイターには重要だそうだ。目からうろこが落ちた。

西村先生は、新しい事務所物件を探しているうちに偶然、品川で倉庫に出会い、オーナーを口説き落として事務所にリノベーションしたという。

他にもいろいろ市場調査をしていく中、ITを中心とした団塊ジュニアの経営者、建築家などクリエイターが、「倉庫はクールだ」「壁や床のエイジングが、シャビーシック」などと言うのに気が付いた。彼らは、オフィスやスタジオにできるビンテージ（築年数の経った）倉庫を探している。そこで、倉庫リノベーション情報のポータルサイト（http://soko-renovation.com/）を立ち上げ、本格的に倉庫リノベーション事業に取り組むことを決意したのだ。

隔週掲載

大谷巌一（おおたに・いわかず）＝イーソーゴドットコム会長。著書に「物流改善Q&A物流ソリューションのためのヒント集」（日刊工業新聞社、共著）、「これからは倉庫で儲ける！！物流不動産ビジネスのすすめ」（日刊工業新聞社）などがある。